

1 会あいは別わかれの始はじめ

2 秋あき茄子なすは嫁よめに食くわすな

3 頭あたま隠かくして尻しり隠かくさず

4 頭あたまの上うへの蠅はえを追おえ

5 当あたるも八は卦け当あたらぬも八は卦け

6 あちあら立たてればこちこちちらが立たたぬ

7 暑あつさ寒さむさも彼ひ岸がまで

8 後あとは野のとなれ山やまとなれ

9 あばたもえくぼ

10 虻あぶ蜂はち取とらず

11 雨あめ降ふって地じ固かたまる

12 案あんずるより産うむが易やすし

13 石いしの上うへにも三さん年ねん

14 石いし橋はしをたたい渡わたる

15 医い者しゃの不ふ養よう生じょう

16 いずれ菖あや蒲めか杜か若つばた

17 急いそがば回まわれ

18 一いち事じが万ばん事じ

19 一いち難なん去さってまた一いち難なん

20 一いち富ふ士し二に鷹たか三さん茄なす子び

21 一寸先は闇

22 一寸の虫にも五分の魂

23 言わぬが花

24 魚心あれば水心

25 牛にひかれて善光寺参り

26 氏より育ち

27 嘘から出た誠

28 嘘つきは泥棒の始まり

29 嘘も方便

30 鶺鴒の真似をする鳥

31 馬の耳に念仏

32 瓜の蔓に茄子はならぬ

33 噂をすれば影

34 江戸の敵を長崎で討つ

35 海老で鯛を釣る

36 縁の下の力持ち

37 驕る平家は久しからず

38 小田原評定

39 鬼に金棒

40 鬼の居ぬ間に洗濯

41

鬼おにの霍乱かくらん

42

鬼おにの目めにも涙なみだ

43

帯おびに短みじかしたすきに長ながし

44

溺おぼれる者ものは藁わらをもつかむ

45

思おもい立たったが吉日きちじつ

46

親おやの心こころ子こ知らず

47

蛙かえるの子こは蛙かえる

48

蛙かえるの面つらに水みず

49

風かぜが吹ふけば桶屋おけやが儲もうかる

50

風邪かぜは万病まんびょうの因もと

51

火中かちゆうの栗くりを拾ひろう

52

勝かって兜かぶとの緒おを締しめよ

53

河童かっぱの川かわ流ながれ

54

勝かてば官軍かんぐん

55

金かねは天下てんかの回まわりもの

56

壁かべに耳みみあり障子しょうじに目めあり

57

果報かほうは寝ねて待まて

58

亀かめの甲こうより年としの功こう

59

鴨かもが葱ねぎを背し負よってくる

60

枯かれ木きも山やまの賑にぎわい

61 かわいい子には旅をさせよ

62 聞いて極楽見て地獄

63 聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥

64 雉も鳴かずば撃たれまい

65 九死に一生を得る

66 清水の舞台から飛び降りる

67 木を見て森を見ず

68 腐っても鯛

69 口は災いの元

70 苦しい時の神頼み

71 君子危うきに近寄らず

72 芸は身を助ける

73 犬猿の仲

74 喧嘩両成敗

75 光陰矢のごとし

76 後悔先に立たず

77 孝行のしたい時分に親は無し

78 郷に入っては郷に従え

79 弘法にも筆の誤り

80 弘法筆を選ばず

81

紺屋の白袴こうやしろばかま

82

転ばぬ先の杖ころばぬさきのつえ

83

先んずれば人を制すさきまひとをせいす

84

猿も木から落ちるさるもきからおちる

85

触らぬ神に祟りなしさわがぬかみにたた

86

山椒は小粒でもぴりりと辛いさんしょうこつぶでもから

87

三人寄れば文殊の知恵さんにんよもんじゆのちえ

88

地獄の沙汰も金次第じごくのさたもかねしだい

89

親しき仲にも礼儀ありしたしきなかにれいぎ

90

失敗は成功の基しっぱいせいこうのもと

91

朱に交われば赤くなるしゆまじあか

92

初心忘るべからずしよしんわす

93

知らぬが仏しほとけ

94

好きこそものの上手なれすきじょうず

95

住めば都みやこ

96

急いては事を仕損じるせいでごとしそん

97

梅檀は双葉より芳しせんだんふたばかんば

98

善は急げぜんいそげ

99

袖振り合うも多生の縁そでふりあうたしやうえん

100

泰山鳴動して鼠一匹たいざんめいどうねずみいっぴき

101 ただより高いものはない

102 立っているものは親でも使え

103 立つ鳥跡を濁さず

104 蓼食う虫も好き好き

105 棚からぼた餅

106 旅の恥はかき捨て

107 旅は道連れ世は情け

108 玉磨かざれば光なし

109 短気は損気

110 提灯に釣り鐘

111 塵も積もれば山となる

112 沈黙は金、雄弁は銀

113 月とすっぽん

114 角を矯めて牛を殺す

115 鶴は千年、亀は万年

116 敵は本能寺にあり

117 鉄は熱いうちに打て

118 出る杭は打たれる

119 天は二物を与えず

120 灯台下暗し

121 豆腐にかすがい

122 遠い親戚より近くの他人

123 時は金なり

124 所変われば品変わる

125 年寄りの冷や水

126 隣の花は赤い

127 取らぬ狸の皮算用

128 どんぐりの背比べ

129 飛んで火にいる夏の虫

130 鳶が鷹を生む

131 鳶に油揚げをさらわれる

132 長いものには巻かれる

133 泣きっ面に蜂

134 泣く子と地頭には勝てぬ

135 なくて七癖

136 情けは人のためならず

137 七転び八起き

138 怠け者の節句働き

139 生兵法は大怪我の元

140 習うより慣れる

141 二階にかいから目薬めぐすり

142 逃にがした魚さかなは大きおおい

143 憎にくまれっ子世こよにはばかる

144 逃にげるが勝かち

145 二兔にとを追おうものは一兔いっとをも得えず

146 糠ぬかに釘くぎ

147 濡ぬれ手てで粟あわ

148 猫ねこに鰹節かつおぶし

149 猫ねこに小判こばん

150 能のうある鷹たかは爪つめを隠かくす

151 喉元のどもと過ぎれば熱あつさを忘わすれる

152 暖簾のれんに腕押うでおし

153 花はなより団子だんご

154 早起はやおきは三文さんもんの徳とく

155 腹はら八分目はちぶんめに医者いしやいらす

156 必要ひつようは発明はつめいの母はは

157 人ひとのうわさも七しち五ご日にち

158 人ひとの口くちには戸とが立たてられな

159 人ひとのふり見みてわがふり直なおせ

160 人ひとは見みかけによらぬもの



161 人を呪わば穴二つ

162 人を見たら泥棒と思え

163 火のない所に煙は立たぬ

164 百害あって一利なし

165 ひょうたんから駒が出る

166 貧すれば鈍する

167 貧乏暇なし

168 夫婦喧嘩は犬も食わない

169 笛吹けども踊らず

170 豚に真珠

171 下手な鉄砲も数撃ちや当たる

172 下手の考え休むに似たり

173 下手の横好き

174 蛇ににらまれた蛙

175 ペンは剣よりも強し

176 仏作って魂入れず

177 仏の顔も三度

178 骨折り損のくたびれもうけ

179 まかぬ種は生えぬ

180 負けるが勝ち

181 待てば海路の日和あり

182 丸い卵も切りようで四角

183 ミイラ取りがミイラになる

184 身から出たさび

185 見ざる聞かざる言わざる

186 三つ子の魂百まで

187 実るほど頭の下がる稲穂かな

188 身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ

189 昔取った杵柄

190 無理が通れば道理引っ込む

191 目くそ鼻くそを笑う

192 目の上のこぶ

193 目は口ほどにものを言う

194 餅は餅屋

195 元の木阿弥

196 物言えば唇寒し秋の風

197 桃栗三年柿八年

198 門前の小僧習わぬ経を読む

199 安物買いの銭失い

200 痩せの大食い

201 柳の下にいつもどじょうはいない

202 藪をつついて蛇を出す

203 病は気から

204 よしの髓から天井をのぞく

205 寄らば大樹の陰

206 弱り目に祟り目

207 来年のことを言えば鬼が笑う

208 楽あれば苦あり

209 楽は苦の種、苦は楽の種

210 類は友を呼ぶ

211 瑠璃も玻璃も照らせば光る

212 労多くして功少なし

213 ローマは一日にしてならず

214 論語読みの論語知らず

215 論より証拠

216 若い時の苦勞は買ってもせよ

217 渡る世間に鬼はない

218 笑う門には福来る

219 破れ鍋に綴じ蓋

220 和をもって貴しとなす